

正休寺だより

第7号

平成22年11月1日発行
青森県北津軽郡板柳町
大字板柳字土井241
TEL.0172-73-2016



正休寺同朋の会

三十周年記念事業行

正休寺同朋の会が発足して今年で三十周年を迎えることとなり、節目としての記念事業が行われた。

一つには本堂の椅子十五脚の寄贈、さらには五月十五日の月例会には奥羽教務所長においでいただき同朋会三十周年に対するお祝いの言葉と記念の法話をいただいた。

また、六月の例会には、住職の大学時代の友人でもあり、安井賞画家として活躍される小笠原宣氏（岐阜市上宮寺住職）に法話をいただいた。



8月14日にどだればち保存会の皆様が板柳旧町内の四カ寺を回ってどだればちを踊りました。

お知らせ

報恩講

期日 十一月二十六日（金）
から二十八日（日）
講師 藤沢晟孝師（秋田県）
当番 小阿弥講中

青森県第一組 公開講座

期日 三月十五日
午後二時～四時
会場 五所川原市オルテンシア
講師 二禮秀嗣師
（北海道木古内町
円照寺住職）

正休寺から会場までの車が出ます。
※参加整理券はお寺にあります。

本山御遠忌団体参拝

期日 平成二十三年
三月二十日から二十二日
※参加申し込みが定数を越えましたので申し込みを締め切らせていただきました。

同朋会忘年会

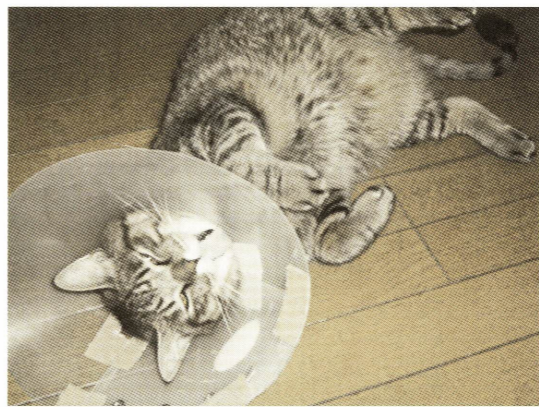
期日 十二月十五日（水）
会場 大坊温泉（平川市）
会費 三千元
交通 お寺から会場までの送迎あり

お庫裡からのつぶやき

「モモ」から家族に一言

私（モモ）三歳のメス猫はこの夏、うち（正休寺）に出没するのら猫に尻尾を噛まれたのです。病院に連れて行ってもらった時には、傷が思った以上に深く、化膿していました。表面の皮膚は壊死、筋肉と骨が見えている状態でした。

舐めて治せる傷ではなかったのに、傷口に顔がかかないようにとライオンのように首にカバー（エリザベスカラー）と言うそうです。カゆを付けられてしまいました。かゆ



い所もかけず、顔を洗う事も出来ない。あちこちにはぶつかり思うように動けなくてイライラする日々。しかし、ケガをして一ヶ月半がたち、最近は扱いても上手になりました。麻酔・手術など、痛い治療ばかり。尻尾を切除しないといけないかもと言われた時期もありました。だけど何とかセーフ、傷口はだいぶ良くなりもうあと一息です。

ここでとっても心配してくれた家族に一言。私の非常事態に気づきもしないで、「いつも尻尾を立てて歩くのに、どうして垂れてるの？」としばしば思いっきり引張ったお父さん。痛くて動けずぐったりしている私を見て、「猫も夏バテするのかなあ。」なんて呑気な事を言っていたお母さん。

「かわいそうだね。」と言いなながら、カバーを付けられた情けない姿の私を見て笑うおじいちゃんおばあちゃん。
「元氣ないなあ。」と頭を撫でながら、苦い薬を口に入れたり、しばしば薬をつけたり嫌な事ばかりする子供達。

今回のケガでちよっと甘えん坊になってしまいました。私はみんなの賑やかな声を聞いています。安心します。みんなの傍が好きです。

正休寺永代供養墓「共命苑」

ぐみょうえん

人は誰もが死を迎え、その御遺骨はお墓に埋葬され、親から子供、そして孫へとお墓が護り継がれるのが当たり前でありました。しかし、近年は、家族制度の変化や少子化の進行によって、先祖代々のお墓を相続していくことが難しい時代になってきました。そういう中で「自然葬」「樹木葬」などお骨を粉にして山や海に撒く葬送のあり方が今日では知られるようになり、改めて、私にとってのお墓の意味が問われています。

お墓とは、亡くなった方のお骨を処分する場所ではありません。亡き人の「死」を厳粛なるものとして受け止めた思いが形となったものであり、残された者が亡き人と出会い直させていただく場です。また、ご先祖を通して無量なる命の繋がり（無量寿佛）に感謝する場でもあります。その意味で真宗のお墓には「俱会一処」又は「南無阿弥陀仏」と刻むのです。

「一人娘が嫁いでしまった。」「首都圏で仕事する子供が将来的にも帰ってくるのが期待できない。」「跡取りがない。」「等々、これから新たにお墓を建てたいと思っている方の不安や悩みを解消する手だてとして、「永代供養墓」が生まれました。

これは一般的な意味としては、ご遺族に代ってお寺がご遺骨を永代にわたってお護りしていくというのがその趣旨でありますが、真宗の教えのもとにいただきなおしてみると、亡き人を供養しているという思いが転ぜられ、亡き人から供養されていた身であったと気づかされて頂く場が永代供養墓「共命苑」の意味なのであります。正休寺では、二〇一一年の親鸞聖人七五〇回御遠忌に向けての記念事業として、境内に永代供養墓「共命苑」を建立いたしました。

宗旨を問わずお骨納めできます

近年、長男長女の結婚が増え、両家のお墓を護っておられる方が増えています。当然宗旨もお寺も違う人が殆どであります。様々なケースがあるかと思えますので、個別にご相談のうえ、ご納骨させていただきます。

先祖松山忠左衛門が備前の国(佐賀県)より明暦二年(一六五六年)津軽に下り、弘前茂森町に住す。三代目忠左衛門が関村(深浦町関)へ転居し関村の初代となる。

関村の二代目忠兵衛が板屋野木村(板柳町)の安田次郎兵衛(大安田)に仕え、後独立し板柳井筒屋松山家の初代となる。松山長左衛門は板柳井筒屋の五代目で嘉永年間には津軽藩長者番付の筆頭大関となり、津軽最大の長者といわれた。

安政六年(一八五九年)津軽各村の御倉へ初五六〇〇俵を献上し、慈善事業に進んで私財を投じた。そのころの板柳村の生活経済の殆どが同家を中心と動いていたと伝えられる。藩への米穀、金銭の献上も莫大なもので、米・粃千俵。金数千両という記録が残っている。

明治三年(一八七一年)の帰田法(藩土土着政策)により水田十畝を残し、約一六二畝が藩に引き上げられ、岩木川の水が無くなるか涸れるか井筒屋の金が干上がるかといわれた津軽最大の長者も衰退していった。松山家は正休寺の門徒である。板柳井筒屋松山家は「忠(かねちゅう)

を屋号とし、初代忠兵衛、二代宇兵衛・五代長左衛門・十代壮一郎(現在神戸市在住)となっている。

井筒屋の「忠の分家には「忠二」「忠三」「忠与」「忠五」「忠六」があり、画家の松山忠三(英国籍)は「忠二」の人であり、与謝野鉄幹昌子夫婦を板柳に招いた松山鉄三郎は「忠与」の人である。

○文責 松山宗平(「忠与」の鉄三郎の孫。現在東京在住)

津軽の歴史散策

松山長左衛門
嘉永年間津軽随一の豪商

正休寺 役員総会を開催

ご依頼方法見直し
の委員を選任

去る九月二十四日、正休寺護持役員総会が開かれ、平成二十一年度決算及び平成二十二年度の予算を審議し、合わせて平成二十三年の正休寺「御講」の当番表を承認いただきました。つきましては、各当番に当たります講中の皆様には何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。



また、一月に開催された臨時総代会の内容として、「正休寺永代供養墓共命苑の建設については、改めて募財は行わず、建設については住職に一任する」「永代供養墓の運営内容については、役員総会に報告する」の二点が協議されたことの報告があり、役員総会において永代供養墓納骨のお扱い内容が確認された。また、各ご門徒への護持金ご依頼基準についての見直しが提案され、その為の検討委員会を設置することとなり、今後一年かけて新たなご依頼基準を協議することとなった。

なお、現在のご依頼基準は、明治の正休寺本堂再建の時に、各ご門徒の所有する田畑及び収入を基準として割当したのが始まりで、その後、修正を加えながら今日に至った。しかし現在でも、多い人と少ない人の差が五倍以上と大きな開きがあり、現状では均等割りが良いのではないかとという意見があったが、それぞれのご門徒の経済状況も配慮すべきでないかなどの意見も出され、少なくともの方がいれば誰かがその分を負担せねばならないことでもあり、慎重なる審議が願われる。

平成二十三年
【正休寺御講当番表】

一月・・・休み
二月・・・初御講
三月・・・小阿弥講中
四月・・・(二十六日)二十八日永代経
五月・・・畑岡講中
六月・・・六郷講中
七月・・・休み
八月・・・沿川講中
九月・・・新和講中
十月・・・休み
十一月・・・板柳講中
十二月・・・(二十六日)二十八日報恩講
休み

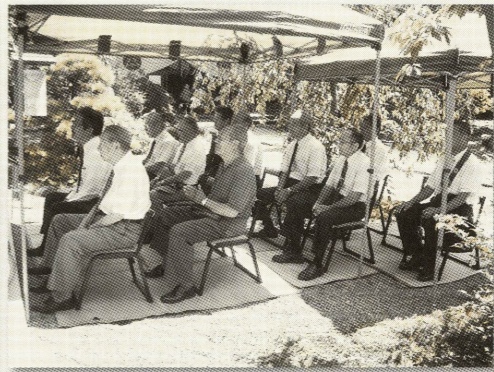


ぐみょうえん 「共命苑」 入佛法要

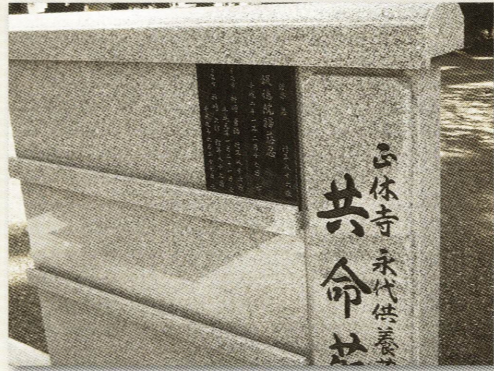
さる8月13日、正休寺供養墓「共命苑」の入佛法要が総代全員参列のもと執り行われました。



入佛法要の読経



参列した総代方



納骨された方のお名前を刻む墓碑



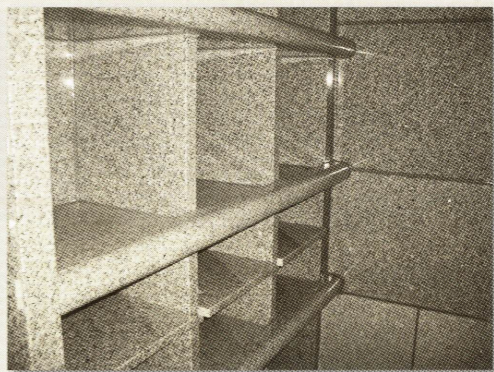
「共命苑」の裏側



「共命苑」内に安置された
釈迦坐像と法輪



特別安置型納骨の石壁にお名前が刻まれる



一般安置型納骨の柵

ぐみょうえん 「共命苑」納骨のお扱いについて (生前の予約申込みができます)

種別	お申込み冥加金	お扱い内容	管理費
特別安置型納骨	700,000円	ご遺骨は骨壺に収め33回忌まで供養墓内の石棺に個別に安置し、その後は合葬し永代供養扱いとする。供養墓内の石棺の扉及び供養墓前の墓碑にお名前と死亡年月日を記載する。	なし
一般安置型納骨	500,000円	ご遺骨は骨壺に収め33回忌まで供養墓内に安置し、その後は合葬し永代供養扱いとする。供養墓前の墓碑にお名前と死亡年月日を記載する。	なし
合葬型納骨	200,000円	ご遺骨は供養墓内に合葬し、永代供養扱いとする。供養墓前の墓碑にお名前と死亡年月日を記載する。	なし
分骨型納骨	100,000円	分骨されようとする遺骨を定められた骨壺に収め供養墓内に安置する。供養墓前の墓碑にお名前を記載する。	なし
墓地改装に伴う納骨	200,000円～ 300,000円	墓碑に家名を記載し、合葬し永代供養扱いとする。	なし

※正休寺永代供養墓「共命苑」では、毎年、春彼岸・お盆・秋彼岸にお経が勤まります。